

オーストラリア雑感

高部英明

(91年、湾岸戦争のさなか1ヶ月の在豪生活を送った。真冬の日本を離れ真夏のシドニーに滞在。その際、レーザー研の皆さんに宛てた手紙)

シドニーに着いた日(1月14日)は暑い日でした。気温は35。スペイン、イタリアの夏を思わせる太陽。空港からタクシーで大学へ直行。まずは、滞在中宿泊する Warrane College を目指す。4階に部屋を与えられる。4畳程度の個室で、ベットと机、本棚、そして壁には "INRI" キリストの像。カトリック系でチャペルもあります。とにかく、シャワーをあびて、夏服に着替え、歩いて5分ほどの Hora 氏の office にやってきました。

Hora 氏は例のごとく大きなゼスチャーで、"Yah....."。滞在中の研究の打ち合わせを済ませ、私が使う居室に案内されました。Hora 氏は、この3月で退官だそうです。4月から1年間スイスの CERN に滞在し、加速器のイオン源の研究をするそうです。退官までに片づける仕事が多くあり忙しいと言っていました。CERN 滞在後は、また、オーストラリアに戻るとのこと。

私は、New South Wales 大学の Gordon Godfrey 財団の客員教授(visiting professor)として来ています。この Fund (財源) はこの、Theoretical Physics を58年に退官した Gordon Godfrey 教授とその他7人が残した(寄附した)40万ドルが当てられています。この利息で優秀な学生を表彰したり、客員を呼んでいます。なかなか、すばらしい fund です。こんなのがレーザー研にもあればいいのに。

今日(1/21)は、Dirac Fund (これは、かの Dirac がここを訪ねた日を記念してできた fund?) で滞在中の Prof. H. Hauptman (1985年ノーベル賞受賞) の Lecture があります。タイトルは "History of X-ray Crystallography" です。

今、Gordon Godfrey の客員教授として、Hora 氏のもとへ私の他に、中井先生にはなつかしい Prof. Pease (英国カラム研 = 大型トカマク JET がある研究所 = の元所長) と、「道長くして馬の力を知る」の上海光機所の Prof. Den Ximig (デン-シンミン) が来ています。兩人とも、子供がオーストラリアに在住とかで、孫の顔を見に来たのも目的の一つのようです。

Prof. Pease は、ここで Rayleigh-Taylor 不安定の研究をしています。中井先生や、E. Storm の IAEA のペーパーを読んでいます。600倍爆縮の実験に大変興味を持っており、色々質問してきます。彼に、「何故、レーザー核融合の研究を始めたのか?」と聞くと、「カラムの元所長として核融合全般を見る必要がある」とか。やはり、アメリカで MCF ICF への力点の移動も気になるようで。コード名 C/H (センチリオン-ハライト) の実験(地下核実験でのレーザー核融合模擬実験)がどこまで圧縮を達成しているのか、など質問してきます。彼は、今回が2度目の滞在で、前は2週間滞在し、Hora 氏と Rayleigh-Taylor の計算を始めたとのこと。ところが、それを、Hora 氏が連名で論文化したため、彼としては、完成度を高めなければ、と一生懸命計算しているのだそうです。「退官するまでには政治の世界。退官してゆっくり研究が楽しめるようになった」と言っていました。

さて、私の生活ですが、朝7時に起き、8時から朝食、9時には office へ。3食ともカレッジの食堂

ですので、1時には戻り昼食。夕食は6時から。カレッジから大学の office まで、歩いて5分(キャンパスの中)。運動不足が気になりますので、夕方食事前に走っています。ちょうど、カレッジの横に芝生のフィールドがあり、一周600メートル程度のグラウンドになっています。そこを6周(今週から7周ですが)走っています。走った後は、シャワーをあびて、夕食。約30名ほどの学生と一緒にです。極力、皆と話をしながら食事をしています。しかし、彼等の豪州英語についていくのはなかなか大変です。

7:00-7:30はABC News(AはAmericanではなくAustralian)を見ている。やはり、GULF WAR(湾岸戦争)が気になります。ここの学生は「2週間でアメリカの勝ちさ」と軽く信じているようですが、はたして……。そうあってほしいのですが。オーストラリアもbattle ships(戦艦)を送っているので、国内ニュースも湾岸戦争関連がほとんどです。

ところで、カレッジで出る3食の食事のまずいこと。英国の伝統にのっとり、味無し料理です。肉にしても、魚にしても、味は大きなビンに入ったケチャップソースを自分で適当につけ、味付けします。龍彦先生なら、きっと一日で逃げ出すと思います。私は何とか耐えています。週末、市内に出たときマクドナルドを食べたら、そのうまかったこと。その後、中華街に行き、“Wan ton soup with rise noodle”を食べて、涙が出てきました。

食事はまずいですが、カレッジは気に入っています。ホテル住まいだと不自由ですが、その点、机、スタンドもしっかりありますので勉強ができるようにできています。ABC Newsの後は部屋に戻って、本を読んだり、勉強したりしています。レーザー研にいと、あまりに刺激が多すぎて色々な事に気が移り、一つの事、一冊の本に集中することがおろそかになりがちです。その点、ここはのんびりしているので集中できます。久しぶりに学生時代に戻った感じで、淋しいながらも異国の一人住いを楽しんでいます。

カレッジはカソリック系ということもあって、アルコールは持ち込めません。この点でも、「机に座る以外になし」です。修行僧」の様な生活です。「アーメン」。

1/19、20の土、日、はシドニーの市内見物をしました。バスで20分ほどで着きます。市内といっても、歴史がありませんから見るべき所はあまりありません。有名なオペラハウス、harbor bridge、これを見たらあとは、植物園、動物園、博物館、水族館程度です。2km四方ぐらいが、いわゆる“city”です。夏休み(大学は11月末から2月末まで夏休み)というのに、観光客も少なく、のんびりしています。日本人観光客はアベックがほとんどで、たぶん新婚さん達でしょう。

雑々と書いて来ましたが、この辺でやめましょう。ではまた。

P.S. 天気の方は初日以外曇りが多く、今日もまた雨です。今、外は大雨、雷雨です。

これを書いた時から24年が過ぎて読みなおした。当時のことが思い出される。出発前、湾岸戦争はまだ始まっていなかった。まさか、ブッシュ大統領(親父さんの方)は戦争しないだろうと平和ぼけした一日本人の私は思い込み、シンガポール航空でシドニーに着いた。ところが、ブッシュは宣言通り、確か、1月16日に湾岸戦争を開始した。カレッジの娯楽室のテレビで学生達と一緒にテレビを見ながら驚いたのを思い出す。「このまま戦争が拡大してシンガポール航空がサービスをやめるようなことになったら帰国できないな」など思ったことを鮮明に思い出す。

滞在中、学生と話しをしたことで何件かまだ思い出す話がある。ある学生が私に「どうだ、オーストラリアは土地も広いし、資源も豊かでアメリカによく似ているだろう」と聞いてくる。私が米国に1年間居た話しをした後だと思う。それは滞在半ばころで、こちらの様子も大分かってきたので、ストレートに私の印象を答えた。「全然似てないね。精神構造が違う。米国は英国と独立戦争して自分達の自由を勝ち取った。だから、彼らには自主独立の強い意識を感じる。所が、この国は何だ?クリケットなどして、精神的に英国から独立していないじゃないか。コインを見れば若かりし頃のエリザベス女王の顔だし」などと正直に答えた。その学生、ショックだったようで、その後、何も言わずに立ち去った。

1ヶ月滞在したが、途中からホームシックになった。ベス(同室のピース教授)と彼の奥さんに「指折り数えて帰国の日を待っているのだ」と言ったことを覚えている。ベスとは随分親しくなった。当時はサッチャー政権時代で、構造改革盛んなりし頃。彼の所長仲間の原子核研究所の所長から「サッチャーが原子核研究はもう終わったから研究所を閉鎖すると言っている。友人として幻覚物理の大切さを政府に手紙で訴えてくれ」などの相談が来ていた。同じ部屋ということから、ベスから相談を持ちかけられた。「原子核物理にはまだこれこれの未知で魅力的な学術が残されているではないか。おまえはどう思うか」など。返答に困ったりした。彼とはその後、IAEAの国際会議(確か、セルビアで開催された時)で再開した。何年かして彼の訃報に接した。JETの所長をしてたというのに人なつっこい、とても親切な紳士であった。奥さんも笑顔のすてきな方だった。

時間がゆったり過ぎていたので、毎日「プロ野球の冬場のキャンプと同じで、走って体を鍛えよう」と、先に書いたようにジョギングを日課にした。それもかなりスピードを上げたジョギングだった。ところが、帰国して「時差ボケ」ならぬ、「季節ボケ」と思われる現象を体験することになった。帰国後2ヶ月ほど体がだるく、集中力を失い、仕事にならなかつたのを覚えている。よく分からないが、走りすぎたのが原因なのか、「季節ボケ」(真冬に一ヶ月、真夏に行っていたこと)なのか。未だに分からない。